住まい活動助成

一般社団法人 achieve

愛知県名古屋市

住宅確保要配慮者（住宅困窮者）の一人暮らし体験を支援するサブリース活動

住宅確保要配慮者の一人暮らし実現を支援するachieveの職員一同

活動エリア

一人暮らし体験用の居室として、JR線と市営地下鉄2線が交差する大曽根駅にあるマンスリーマンションの1室を、4カ月間借り上げた

団体設立経緯

心理・福祉の専門職であり、非行少年や障がい児・障がい者の生活、就労、家族支援に長年にわたり携わってきた各役職員が、その専門性を活かし誰もがやりたいことにチャレンジできる団体を目指し、2022年1月に**一般社団法人achieve**（アチーブ）を設立しました。同年3月に愛知県の居住支援法人指定を受け、単身生活を目指す**住宅確保要配慮者**（以下、当事者）からの相談対応や見守り支援を始めました。同時に単身生活をする前の支援として、本サブリース活動を始めました。

活動概要と活動対象範囲

今後単身生活を希望する当事者が2週間程度の一人暮らしを体験できるよう、当法人がマンスリーマンションの1室を4カ月間、サブリース契約しました。

体験前には当事者や支援関係機関と面談を行い、体験前後の心理検査や体験後の振り返り、その後の生活・就労等支援に向けた相談業務も実施しました。当時者と共に、単身生活に向けた準備を段階的に重ね、一人ひとりに適した支援を実施し、当事者のその後の生活が、より安定した形で継続していくことを目的としています。活動対象範囲は、愛知県名古屋市内とし、関連機関に活動を周知し、希望者を募集しました。

活動に至った理由や背景

これまで非行少年や障がい者に対する支援に携わってきた中で、当事者が一人暮らしを実現することのハードルの高さを痛感してきました。当事者にとっては、事前段階では具体的なイメージが掴みにくく、実際に生活を始めてみると、想像以上の孤独感に襲われることも多いようです。生活スキルの未熟さも相まって安定した生活の継続が難しく、一人暮らしを断念するケースを多く見てきました。

この事業では、本格的な一人暮らしを開始する前に疑似体験を通じて、当事者・支援者の漠然とした不安や、当事者本人が抱える課題を明確にすることを目指します。そして、その後の一人暮らしをより円滑に進めていけるよう、寄り添った支援を実践していきたいと考えました。

年度の前半には事業内容を説明したパンフレットを作成し、関連機関に送付した

活動内容と成果

●サブリース物件確保のための情報収集（2022年4月）

活動に先立ち、名古屋市住宅確保要配慮者居住支援協議会へ入会しました。また実際にサブリース事業を手掛ける居住支援法人を訪問、見学し、当活動に対する助言をいただきました。

●他居住支援法人、その他関係機関、不動産会社への協力依頼（4月～）

一人暮らし体験事業の周知と、当事業条件に合致する物件の探し方について他機関と相談しました。その際、他の居住支援法人より不動産会社を紹介していただき、サブリース物件の探し方への助言と、今後の協力を依頼しました。

物件の場所について、当初は名古屋市守山区周辺を検討していましたが、名古屋市内及び近郊からのアクセスの良い物件はどうかとの提案をいただき、範囲を広げて再検討しました。

●相談窓口「ももさく」開設と事業活動の情報発信（4月～ 9月）

相談窓口と公式LINEを開設し、活動の周知及び相談窓口の整備を行いました。また、当活動のパンフレットを作成し、各関係機関や不動産会社などへ活動案内を送付しました。

●サブリース物件の確保・契約（9月～ 23年1月）

短期間のサブリース契約かつ約2週間毎の入居者入れ替わりが可能であることを条件に、物件を探しました。予想通り物件探しは難航し、通常の賃貸契約物件では条件に合致しなかったため、マンスリーマンションの1室を確保することにしました。

スーパーや薬局といった近隣の資源の有無や、女性でも安心して住めるかなどを勘案し、JR中央線・名古屋市営地下鉄大曽根駅から徒歩6分の物件を4カ月間契約しました。多方面からのアクセスのしやすさで、幅広い希望者に体験していただけることを期待しました。

●相談業務で使用する各シートや心理検査用紙の準備（9月～）

「一人暮らし体験が何となく終了

一人暮らし体験の希望者とは事前に面談を実施。期間中に取り組みたい課題の設定など、その後につなげる働きかけもする

してしまった」とならない様に、アセスメントシートを作成しました。体験中に頑張りたいことを体験希望者本人に目標設定してもらい、終了後に目標達成について検証できるようにしました。また、体験入居前後に心理検査を実施し、自身の特徴や傾向について、体験希望者と共に検査結果を踏まえて振り返りができるようにしました。

●区役所、自治会への協力依頼（9月～）

マンスリーマンションの特性上、「他の入居者と関わる場面はほぼない」との不動産会社の見解でしたが、現実の生活ではご近所付き合いも必要です。これを勘案して区役所を往訪し、自治会に対する周知や地域行事への参加について相談しました。

名古屋市北区役所地域推進係及びこども課より、町内会と民生委員を紹介いただき、面談しました。Covid-19の感染流行期でもあり行事への参加は難しいとのことでしたが、「道を挟んで向かいにある地域のゴミ集積場を使用してはどうか?」との提案をいただきました。マンションには敷地内に入居者専用の24時間ゴミ出し可能な集積場があったため、少しでも実際の一人暮らしに即した生活を経験するためにはありがたい申し出でした。その旨を体験希望者や関係機関に伝えたところ、そのような地域の方の存在自体が心強く、安心して体験生活が送れるとの意見をいただきました。

●体験希望者の募集

一人暮らし体験の希望者候補につながりを持っていそうな各関係機関へ、パンフレットを送付して募集を依頼しました。具体的には、名古屋市内のすべての区の各障害者基幹相談支援センター、住まいサポートなごや、居住支援法人、子ども若者総合相談センターです。

●体験希望者の問い合わせへの対応（9月～）

各関連機関から、電話や公式LINEでの問い合わせをいただきました。体験中の安全を考慮して物件の住所を非公開にしていたため、その詳細や、利用料・体験期間などの質問がありました。中には緊急シェルターとしての使用希望など、お断りしなくてはいけない問い合わせもあり、住まいサポートなごやなど他の関係機関へ支援対応方法を相談しました。

また問い合わせを反映して、体験事業についての説明を改訂しました。シェルター利用はできないこと、当法人だけではなく関係機関も見守りなどを共に行っていくことを明記しました。

●体験希望者との面談・アセスメント、体験部屋準備

体験希望者との面談を実施し、体験中に取り組みたい課題「がんばりたいこと」を目標シートに記入いただき、体験中も課題を意識してもらえるようにしました。

マンスリーマンションの特性上、そのまま暮らし始めることができる備品がそろっていましたが、必要最低限の家具・家電、調理器具以外は撤去しました。まずは一人暮らしに必要な物品や購入すべきものを考えてもらうため、備品チェック表を作成し、食器などの備品に限り必要に応じてレンタルできるようにしました。

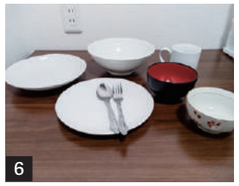
●体験希望者への見守り～振り返り

アセスメント時に、電話・LINE・訪問などの見守りの方法とその頻度についての希望を聞きました。それを受けて体験希望者、関係機関、achieveスタッフの三者で話し合い、方針を決定しました。主な見守り内容は、安否確認、目標シートに記載された課題の進捗状況、困りごとの有無を確認することです。関係機関と共に、体験希望者が安心して生活できるよう適切な見守りを実施しました。

体験終了後には、目標シートと振り返りシート、体験の前後で実施した心理検査の結果を参照しながら、再度三者で振り返り面談を実施しました。今後、単身生活を希望される方には、この体験を有効活用できるよう、面談を通して体験者自身が期待や不安事項を整理できるように心掛けました。

●体験後の生活に向けた相談と物件内覧の同行

体験後の生活や就労について、各関係機関と協力・連携しながら相談業務を実施しました。体験を通じて感じたことを今後に活かすために整理をしながら面談し、体験希望者が抱いた希望や不安を考慮した物件探しに対応しました。複数の物件を内覧する際に同行し、適切な物件選びをサポートしました。



1. 借り上げたマンスリーマンションの1室、間取りは洋室1K　2.3. キッチンを確認したり、レンタルしたシーツを洗濯したりする体験希望者　4.5.6. 部屋に備え付けの備品類はあらかじめ撤去した。食器類などは必要な場合のみレンタルで対応

課題と解決方策

1. サブリース物件の確保

短期間での契約・入居者の入れ替わりがあるという条件でサブリース物件を探すことは困難でした。別の賃貸物件を他に1件紹介されましたが、女性の入居を考慮した結果、契約には至りませんでした。今後もマンスリーマンションに限らず、地域で活用できる資源を積極的に探すことで、物件確保と共に地域住民との関わりや活動周知が図れると考えます。

2. 体験希望者の受け入れ

10月に物件を契約した後に募集を開始したため、事前面談や見学などが続き、体験希望者が確定するまでに時間を要しました。12月と1月に希望が集中したため、日程が合わない場合もありました。また、身体障がい者や高齢者など想定していなかった問い合わせもありました。

今後は募集のタイミングや契約開始時期を見直し、様々な関係機関との相談・連携を通じて対象者の範囲を広げることで、より多くの人への体験の提供を目指します。

今後の予定

次年度以降も、本年度の課題と解決策を活かし、一人暮らし体験事業の実施を検討しています。また、将来的には当時者にとって、共に地域で生活する近隣の方々にこそ、最も身近な支援者になっていただくのが理想です。そのため区役所や自治体、地域住民の方との関わりを継続し、当時者が地域の一員として、地域のためにできることを考えていきたいと思います。

体験希望者をフォローして居宅支援事業につなげることと併せて、関係機関や不動産関係者との連携を強化し、長期的な事業展開を図ることで、より多くの人々に支援を提供していく方針です。

一般社団法人achieve

2022年1月法人設立／メンバー数：6人／代表者：鈴木 順一（すずき・じゅんいち）
●〒462-0825　名古屋市北区大曽根3-10-7 リニアビル208号
☎050-3612-7924　achieve0921@gmail.com
acachieve0920.wixsite.com/website/

私たちは、一人暮らしを開始する事に不安を抱える方に対して、その後の単身生活をより安定した形で開始･継続できるように、実際の一人暮らしに近い疑似体験（一人暮らし体験）のサポートをしています。